

2006年10月

各位

NineSigma, Inc.
株式会社ナインシグマ・ジャパン

**米国ナインシグマ社が日本法人を設立し
オープンな社外技術導入支援事業の国内展開を加速化**

オープンイノベーション支援サービスの先駆者的企業であるナインシグマ・インク（社長：ポール・スティロス 本社：米国オハイオ州クリーブランド）が、日本法人、株式会社ナインシグマ・ジャパン（社長：諏訪暁彦 本社：東京千代田区）を設立し、事業拡大の勢いを加速している。新会社は、顧客開拓および業務遂行を担当し、ナインシグマ社のビジネスを、日本およびアジア地域へ展開する拠点としての役割を担う。

ナインシグマ社はこれまで、急成長しているオープンな社外技術導入（以下オープンイノベーション）サービスの需要に応えるため、顧客企業（技術募集企業）と技術提案者のネットワークをグローバルに拡大し続けてきた。日本国内でもこれまでに大手製造業者を顧客として3年以上にわたり事業を展開してきた実績をもち、今回設立された新会社はそれらの顧客へのサービス強化とともに、世界規模でのオープンイノベーション展開の一翼を担うことを目的としている。

新会社は、技術テーマの選定から始まり、技術募集、契約にむけた提案者選定など、オープンイノベーションにかかわる一連の業務支援を、顧客企業に対して行う。今後は、電気機器、食品、機械、材料、自動車など、開発のスピードが事業の利益に大きく影響を与える、最もオープンイノベーションの効果が大きい業界を中心に事業を展開していく。

米国ナインシグマ社の取締役で、新会社の共同創設者でもある諏訪は、「急成長を続ける日本は、ナインシグマにとって戦略的に最も重要な市場。過去3年に及ぶ事業展開の結果、潜在市場の大きさを実感し、今回の会社設立に結びつけた。国内でのオペレーション体制を整えた今後は、積極的に顧客開拓を行っていく」と、その意気込みを語る

「プロダクトやソリューションに求められる技術が高度化、多様化、複雑化するなか、社内に閉じた研究開発だけで技術と事業の競争優位性を維持、強化し続けることは益々困難になってきていると認識している。これを打破する大きな施策として

オープンイノベーションを位置付けている」と NEC の知的資産 R&D 企画本部長の西本裕氏はオープンイノベーションの重要性を力説する。コア技術の囲い込みと並んで、オープンイノベーションの考え方を企業の成長、競争力強化の手段として取り込み始めている企業は国内でも増え続けている。西本氏は「ナインシグマ社の持つ世界中の技術者へのアクセスと、求める技術・開発提案を引き出すノウハウは、オープンイノベーションを実践する手段として役立つと考えている」とナインシグマ社のサービスを利用してきた感想を述べている。

諏訪は、前職の株式会社日本総合研究所時代にナインシグマ社との共同プログラムを国内で立ち上げ、これまでに 15 社とのプロジェクトを行ってきた経験を持つ。マサチューセッツ工科大学大学院で材料工学部を修了した後、マッキンゼー・アンド・カンパニーのコンサルタントとして 6 年にわたり多数のプロジェクトに従事してきた経験に基づき、オープンイノベーションの先見性、日本における必要性に目を付けたことがビジネス化のきっかけ。また、新会社のメンバーとして既に 5 人を採用し、今後の国内における業務展開に備える。

日本以外にも、今年に入りドイツに新しい営業拠点を設立したナインシグマ社は、これからオープンイノベーションの世界展開にむけて着々と体制を整えつつある。

ナインシグマ社について

ナインシグマ社は、企業の社外技術導入を支援するために 2000 年に設立された企業で、100 万人超の技術者データベースと、独自の募集コミュニケーション構築ノウハウにより、大手企業の求める技術提案を短期間に高い確度で集められることが特徴。
(URL : <http://www.ninesigma.com>)

ナインシグマ・ジャパン社について

2006 年 10 月にナインシグマ社と諏訪が共同出資で設立。ナインシグマ社のサービスをベースに国内の企業のニーズに応えるため、技術導入対象テーマの選定から提案選定のためのコミュニケーションまで、包括して顧客を支援するサービスを構築し展開中。

(URL : <http://www.ninesigma.co.jp>)

以 上

ご照会先

NineSigma Inc. Ms. Bronwyn Monroe
(米国)+1-216-295-4822 monroe@ninesigma.com

(株)ナインシグマ・ジャパン 諏訪暁彦
03-5219-1295 suwa@ninesigma.com